

小川ゆか

桃の節句に

愛してほしいのに愛してばかりで
水道管が破裂している

もう消えることのない刻印と知りながら
アイクリームを眉間にも塗る

手のひらに桃の花びらを隠して
蜜の香りへと
おちてゆく